

審 査 決 定 報 告 書

決算特別委員会

令和3年第3回水戸市議会定例会において当委員会に付託されました認定第1号（令和2年度水戸市一般会計及び特別会計決算認定について）の審査の経過並びに結果について、水戸市議会会議規則第101条の規定に基づき報告します。

当委員会は、第1回委員会を9月6日に開催し、正副委員長の互選を行い、委員長を小泉康二、副委員長を後藤通子君に決定しました。また、昨年度の委員会審査を踏まえ、決算審査に伴う請求資料は、発言通告に関連する事項を対象とすることを確認しました。

続いて、9月21、22、24日にそれぞれ委員会を開催し、提出された決算書及び審査資料を中心に、種々質疑応答を行うなど、その内容について慎重に審査を行った後、採決の結果、認定第1号は、賛成多数をもって、認定すべきものと決定しました。

なお、委員会の審査を通じ、今後の市政運営上留意すべき事項として各委員から出された主な意見は、次のとおりであります。

審 査 意 見

1 一般会計について

(1) 歳入について

- ア 市税の収納体制については、茨城租税債権管理機構における研修機会を拡充するなど、職員の業務遂行能力の向上を図られたい。
- イ 未収金については、きめ細かな納付相談を行うとともに、財産調査等を確実に実施するなど、不納欠損額の縮減に努められたい。
- ウ 住宅使用料については、納付意思の欠如による過年度分の収入未済額が多く生じており、公平性の観点から、収納対策の改善に取り組まれたい。
- エ 市債については、将来世代に過度な負担とならないよう、残高の推移に留意するとともに、借入先の決定に当たっては、引き続き、より低利率で借入れを行うよう努力されたい。

(2) 歳出について

- ア 将来世代に大きな負担を残さないよう、実質公債費比率や将来負担比率等の財政指標に目標を設定するなど、中長期的な視点に立った財政運営に努められたい。
- イ 1,000円タクシー運行事業については、高齢者のさらなる利便性向上に向け、対象地区の拡大や利用者負担額の見直し等を検討されたい。
- ウ RPAによる業務の自動化を推進するなど、デジタル化の強化を図り、市民サービスの向上や職員の働き方改革の推進に努められたい。
- エ 敬老会補助については、庁内関係部署のさらなる連携を図り、各地区

における対象者の正確な把握に努められたい。

- オ 認知症高齢者等おでかけあんしん保険事業については、加入要件となる行方不明高齢者等ＳＯＳネットワーク事業への登録とあわせ、事業の周知徹底を図り、加入者の増加に努められたい。
- カ 高齢者支援センターについては、相談支援体制のさらなる充実に努められたい。また、いきいき交流センターにおいては、設備の定期的な更新を実施するとともに、介護予防拠点としての新たな活用策についても検討されたい。
- キ ごみの収集に当たっては、より安全な車両の運行に努められたい。また、ごみ処理基本計画に基づき、資源物の売払いなど収益が見込まれる取組を確実に推進されたい。
- ク 地場農産物については、本市の農業振興に向け、販路拡大や観光客を意識した商品開発の支援とともに、学校給食における活用の推進に努め、生産者の所得向上を図られたい。
- ケ 中心市街地店舗、事務所等開設促進事業については、利用実績が伸び悩んでいる状況を踏まえ、事業者がより利用しやすい制度となるよう検討されたい。
- コ 弘道館・水戸城跡周辺地区については、観光客へのおもてなしの観点から、二の丸角櫓へのアプローチ通路の改善を含め、観光拠点としての機能の充実に努められたい。また、民間活力を導入するなど、当該エリアの魅力向上に資する取組を検討されたい。
- サ 狭あい道路及び都市計画道路の整備については、予算配分の見直しを検討するなど、事業の推進に努められたい。
- シ 今後の小中学校長寿命化改良事業については、児童、生徒の負担や安全性を考慮し、工期の短縮に努められたい。また、設計時には適宜、関係者等から意見を聴取するなど、より充実した学習環境の整備を図られたい。
- ス 予備費については、コロナ禍の状況を踏まえ、充当理由や必要性を精査し、引き続き、適正な運用に努められたい。
- セ 多額の不用額が生じている事業については、予算編成段階において十分な精査を行うなど、効果的な財源の配分に努められたい。

上記のとおり報告する。

令和３年９月２８日

水戸市議会議長 須田 浩 和 様

決算特別委員会
委員長 小 泉 康 二